

图33 製埴土器詳細图1

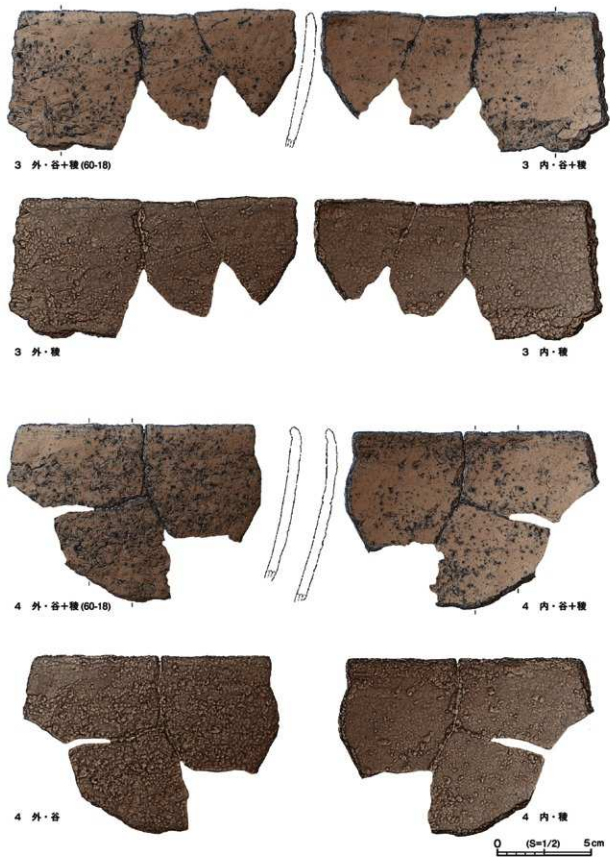


図34 製埴土器詳細図2

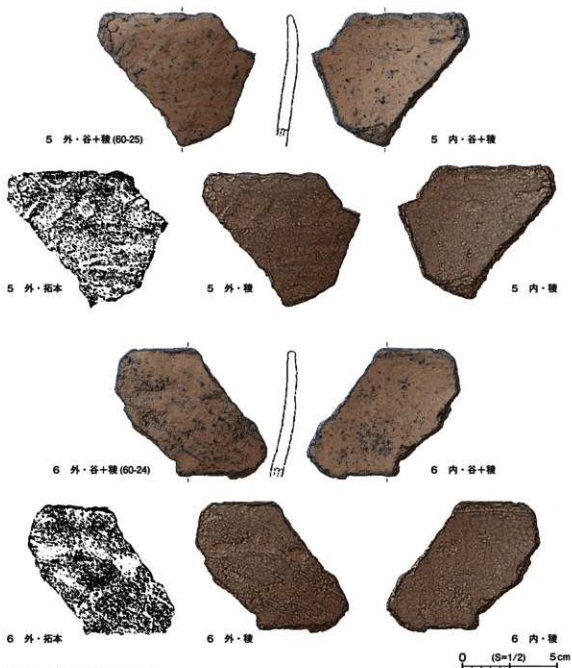


図35 製塩土器詳細図3

3. 製塩土器口縁部資料の類型

製塩土器については、無文であること、剥離が激しいこと、二次焼成による色調変化があることを基準として抽出している。分類については調整、接合痕の有無が重要であることなどから、通常拓本による資料提示では表現しきれない点も多いため、代表的なものについて三次元レーザー計測を行い、PEKIT処理により、谷線・稜線の特徴線を抽出し、谷線・稜線の特徴線を合成したデータ、谷線のみの特徴線を抽出した詳細図を作成した(図33～55)。各図に記載した各資料は通しの番号を付し、番号に続けて拓本による実測図の番号を()で示した。これを基に本遺跡の製塩土器の口縁部資料の概要を記載し、上記分類基準により、基本的な類型を設定する。

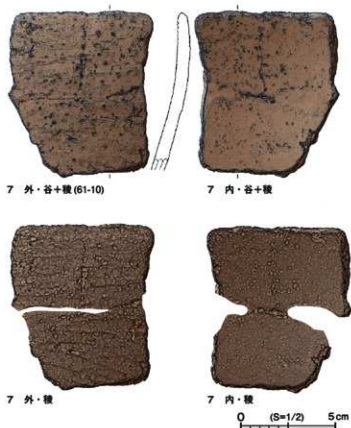


図36 製埴土器詳細図4

I A類 図36～39(No.1～7)

口縁形態が平縁のものである。外面調整はA類である。

1・2は同一個体の可能性がある。直線的に外傾し、口縁はiii2類でナデ調整される。外面の口縁上位はナデ調整がされ、口縁上位にわずかに接合痕を残すが、口縁下位から体部は斜め方向のナデ調整の後、丁寧なミガキが施される。内面は口縁上位のみナデ調整であるが、口縁下位はミガキ調整である。

3・4は同一個体である。口縁はiii2類でナデ調整が施される。外面の口縁はミガキ調整であるが、下位に指圧を残す。体部はケズリ・ナデ調整であり、接合痕は残さない。内面はミガキ調整である。

5はやや不整の口縁形態を呈するii類であり、口唇がナデ調整される。外面の口縁上位はミガキ調整、下位はナデ調整で指圧を残す。体部はナデ調整がされる。内面は口縁上位がナデ調整され、口縁下位から体部がミガキ調整である。6はii類で、口唇はナデ調整である。外面の口縁は指圧が残り、口縁上位はナデ、口縁下位から体部にかけてケズリを残す。口縁内面はケズリを部分的に残すが上位までミガキが施される。

7はii類で、口唇はナデ調整である。内外面の口縁上位はナデ調整がされる。外面の口縁下位から体部は粗いナデ調整、内面はミガキ調整である。

II A類 図37～39(No.8・9・11～14)

口縁形態が小波状で、外面は接合痕を残さないA類である。

8・9の口縁断面形はi類で口唇の調整はない。8は外面口縁上位がナデ、下位はケズリと粗いナデ調整である。内面はナデ調整であるが、口縁に指圧をわずかに残す。9の外面はナデ調整で指圧が認められる。内面は口縁上位までミガキ調整がされる。

11～14は同一個体の可能性がある。11のみB類でわずかに接合痕を残し、その他はA類であり、同一個体の可能性からA類にまとめて記載する。口縁はii類で口唇ナデ調整がされるが、13のみi類で未調整である。外面はナデ調整で部分的に指圧を残し、14はわずかにミガキ調整が認められる。内面の口縁上位はナデ調整であるが、口縁下位から体部はミガキ調整が主体となる。

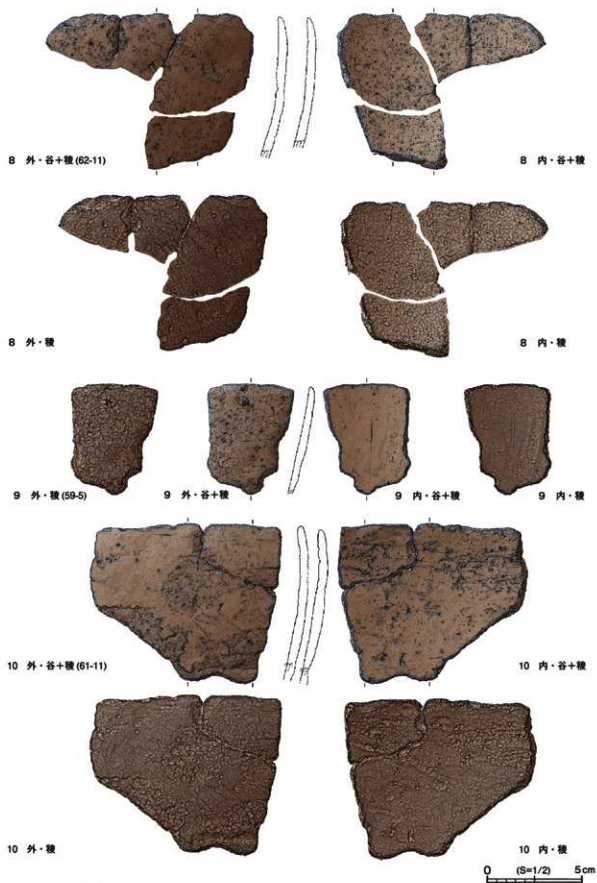


図37 製塩土器詳細図5

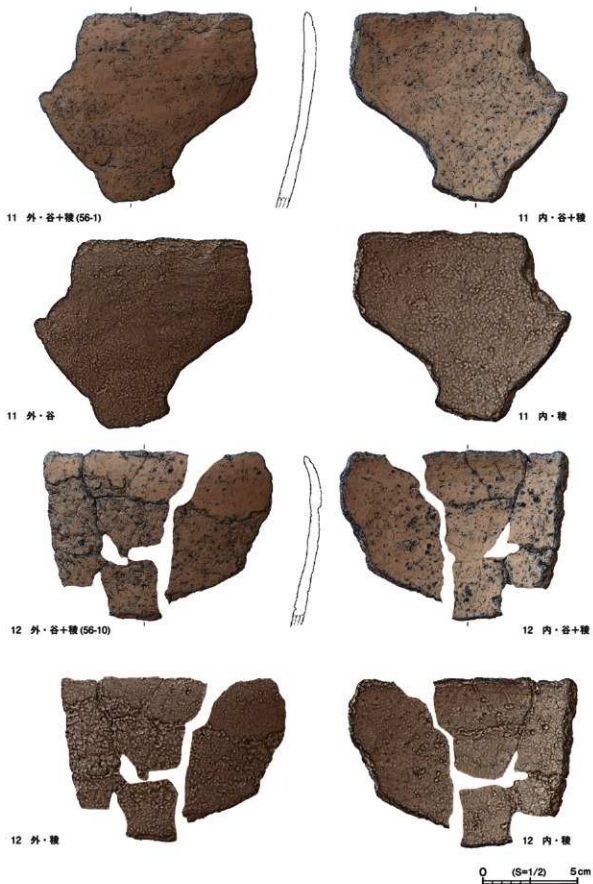


図38 製塩土器詳細図6

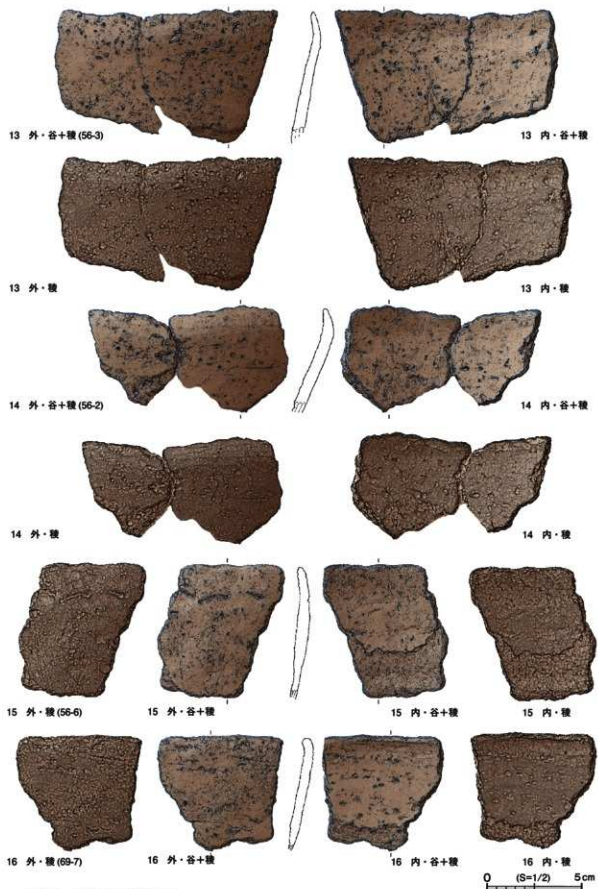


図39 製塩土器詳細図7

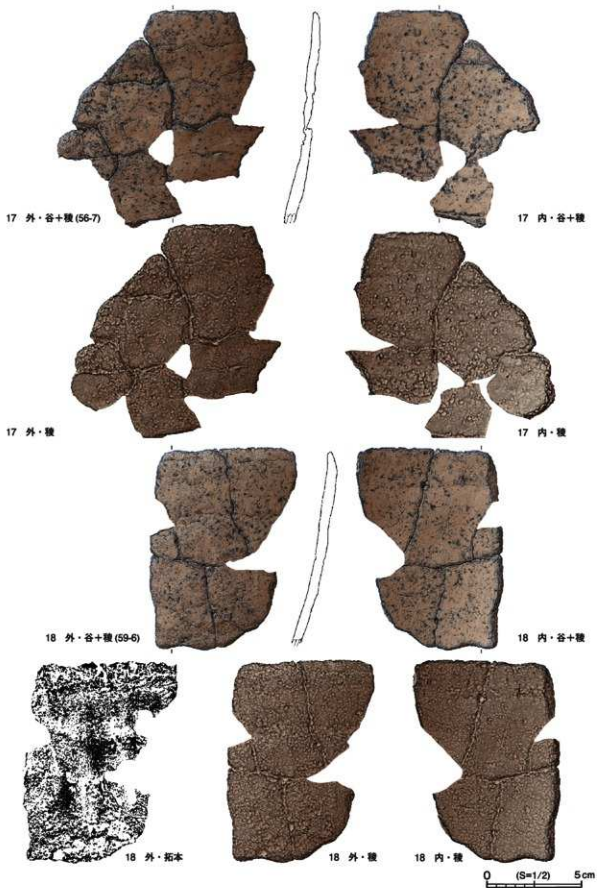


図40 製塩土器詳細図8

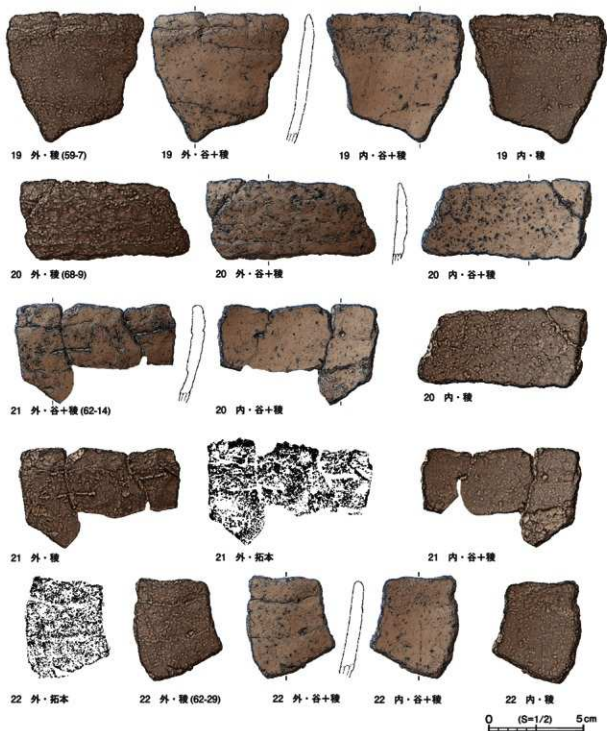


図41 製塩土器詳細図9

Ⅱ B類 図37・39～41(No.10・15～22)

口縁形態が小波状で、外面は接合痕を残すB類である。

10はii類で口唇はナデ調整される。外面は接合痕を痕跡的に残す。外面の口縁上位はナデ調整、口縁下位以下がミガキ調整であり、体部に一部ケズリを残す。内面の口縁上位はナデ調整、口縁下位はケズリ後ナデ調整である。内面体部はミガキ調整される。



図42 製塩土器詳細図10